



# 日本整形外科スポーツ医学会 ニュースレター

No.18 2019年4月30日発行

## ■ 第44回日本整形外科スポーツ医学会 JOSSM を開催して 2018年9月6日（晚餐会）、7日-9日（学術）

第44回会長 西良 浩一

徳島大学運動機能外科学 教授

2018年、徳島市アスティー徳島にて、第44回日本整形外科スポーツ医学会 JOSSM を開催いたしました。学会前後、列島直撃の台風による関空壊滅、学会前日の北海道地震など自然災害に見舞われた日本でした。まずは、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

海外と北海道からの多くの参加キャンセルとなった学会ですが、蓋を開けてみると、参加者総数 1242 名は、ほぼ歴代最高に近い参加者となりました。この紙面をお借りして皆様方に深謝いたします。

学会の前日、晚餐会を行いました。会場は大塚国際美術館、システーナ礼拝堂（写真2）にて開催しました。友人のプロ・ピアニストである瀬部妙子様とご友人に演奏会をお願いしました。学会タイトルである“情熱と覚悟”にふさわしい、“情熱大陸”のテーマ曲で皆様をお迎えました。徳島の食事、徳島由来のワイン、そして最高の絵画で皆様楽しんで頂いたようです。

さて学会は同時開催の日韓セミナーもあり、2日半の開催でした。特別企画として、女性アスリート支援、モーターコントロール、さらには五輪企画など。パネルディスカッ



写真1：



写真2：晚餐会：大塚国際美術館、システーナ礼拝堂

ションは、100%を超える復帰。各部位の障害に対し、ドクター、PT、AT が共同して怪我をする前の状態以上にして復帰させるというこれまでには無い概念のpanelを行いました。これからの日本スポーツ医学の将来を担う人材の貴重なpanelになったと自負しております。

文化講演には、世界を代表するアルピニスト・野口健



写真 3：文化講演：野口健氏

(写真 3) さんをお願いしました。ヒマラヤで大きい雪崩に遭遇し頸椎椎間板ヘルニアになり、徳島大学にて内視鏡手術を受けたお話を始め、七大陸最高峰の最年少登頂達成に至る秘話。大学時代のスポンサー集めの苦労話。などなど、大変興味深いご講演に会員全員魅入っておりました。ありがとうございました。

本学会の special guest speaker はシカゴのノースウエスタン大学整形外科で教授をお勤めの Wellington K Hsu 先生 (写真 4) をご招待しました。Hsu 先生は、私と同様脊椎スポーツがご専門で全米トップの脊椎外科医です。大変素晴らしい教育講演でした。

全員懇親会は、まず The Jaywalk の演奏 (写真 5) をお楽しみ頂きました。”何も言えなくて夏”の真っ只中であった先生方が多い学会です。全員で大合唱しました。そして徳島と言えば阿波踊り。徳島一の有名連、娯茶平 (写真 6) に来て頂きました。全国から参加している多くの先生方も一緒に踊りました。

さて、本学会のために、書籍を刊行いたしました。“極



写真 4：special guest speaker：Wellington K Hsu 先生



写真 5：全員懇親会①：The Jaywalk によるミニライブ



写真 6：全員懇親会②：娯茶平による阿波踊り



写真 7：“極めるアスリートの腰痛：100%を超える復帰”：(左から) 室伏由佳先生、西良浩一会長



写真 8：SUP (stand-up paddle board) ①：参加者のみなさん



写真 9：SUP (stand-up paddle board) ②：源純夏さん



写真 10：西良浩一会長と徳島大学整形外科学教室一同

めるアスリートの腰痛:100%を超える復帰”です。アスリートの腰痛担当する医師、トレーナー、理学療法士などが共同して学際的に100%を超える復帰を可能とする書籍です。オリンピックを代表して、徳島大学整形外科で非常勤講師をお勤めで、アテネ五輪ハンマー投げ日本代表の室伏由佳先生にも執筆をお願いしました。(写真7)後世に残る名書となったと自負しております。皆様、是非お買い求めください。また、室伏先生には、学会でのシンポジスト、座長、教育講演、フル回転の大活躍ありがとうございました。

学会中日の早朝は、SUP (stand-up paddle board) を有志の皆様にお楽しみいただきました。(写真8)徳島県在住のオリンピックでシドニー五輪競泳銅メダリスト

の源純夏さん(写真9)にご協力いただきました。日中、学問で厳しい討論で戦う中、大変楽しい戦士の休息になったものと思います。純夏さん、ありがとうございました。

本会大成功の立役者は、岩目敏幸事務局長、松浦哲也統括部長、酒井紀典日韓スポーツ事務局長、殿谷一朗副事務局長、さらには教室員、同門会諸氏の皆様、そして何より参加賜った学会員の先生方でございます。紙面を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

みなさま、今後とも、ご指導のほどよろしく願い申し上げます。



## ■ 第 45 回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会を開催するにあたって

第 45 回会長 中村 博亮

大阪市立大学



このたび、2019 年 8 月 30-31 日、大阪市コングレコンベンションセンターにおいて第 45 回日本整形外科学会スポーツ医学会学術集会を開催させていただきます。伝統のある本学会を会長として主催させていただきますこと、非常に光栄に感じております。

我々大阪市立大学整形外科学教室が本学会を主催させていただきますのは、1975 年に第 1 回、1977 年に第 3 回をともに市川 宣恭が主催させていただいて以来のことで、実に 42 年ぶりになります。当時は研究会であった由に伺っておりますが、久方ぶりに本学会を担当させていただくことに、同門一同非常に感謝しております。

今回のテーマを【原点からの飛躍と多様性への対応】とさせていただきます。【原点からの飛躍】には、我々の教室が本学会の第 1 回を開催させていただいた原点に立ち戻るといふこととそこから飛躍という意味をこめました。また同時にスポーツ選手が、スポーツ整形外科医と関わることで、その時点からさらに飛躍できるという期待も込めています。さらにスポーツ整形外科学の難しさはその多様性にあると考えています。対象となるスポーツの種類も違えば、ポジションも異なる、さらにそのレベルも異なります。その多様性に応じて我々は対応を迫られることになります。さらには年齢によってもその要求は異なるでしょう。以上のことからその多様性に対応することが、予防や治療を成功に導くための大きなポイントになります。

今回、文化講演を橋本聖子参議院議員にお願いしました。皆さまよくご存じとは思いますが、アルペールビル冬季オリンピックスピードスケート女子 1500m 銅メダルを獲得しておられ、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事、日本オリンピック委員会副会長をしておられます。来年のオリンピック、パラリンピッ

クの準備が急ピッチに進んでおり、ご多忙かと思いますが、当方の依頼を快く引き受けていただき、「2020 年オリンピック・パラリンピックがもたらすもの—スポーツを通じた人材育成と街づくり—」と題してご講演をいただく予定です。また、特別講演ではこれまで本学会に貢献してこられました武藤芳照先生に【超高齢社会におけるスポーツ医学の役割】を、また本年教授職を無事定年退職された吉矢晋一先生に【スポーツ医学の現場で】と題して、講演していただきます。また特別企画は 5 セッション用意させていただきました。「9 月 20 日から開幕するラグビーワールドカップの話題」、「スポーツ選手にとって身体能力以外にその成績を左右するであろう心の問題」、「東京オリンピック、パラリンピックの準備状況について」、「コアトレーニングの神髄」、「スポーツ現場対応における諸問題」を取り上げております。海外からの招待講演としましては KOSSM（韓国整形外科学会スポーツ医学会）学会長の Prof. Yoon Je Cho 先生（Kyung Hee University Medical Center）を、アメリカから肩関節鏡手術のスペシャリストで ISAKOS shoulder committee member である Prof Dan Guttman 先生（Taos Orthopaedic Institute）をお招きし、ご講演頂くことになっております。また、15 の共催セミナー、教育研修講演（6 講演）、シンポジウム（4 シンポジウム）、パネルディスカッション（6 パネル）、そして 2 つのディベートを予定しております。また 4 月初旬に一般演題の応募は締め切らせていただきましたが、415 演題の応募をいただき、2 日間の日程としては過去最大の応募演題数となりました。会員の方々に紙面をお借りして御礼を申し上げます。

本学会を開催させていただきます 8 月末は、学校の夏休みが終わっている地域もあること、病院の夏休み時期と重なり人手が少なくなるであろうこと、ラグビーワールドカップの直前であることなど、色々忙しい時期かと思っております。大阪は昔から食い倒れの街といわれるように全国のグルメが味わえますし、串カツ、たこ焼き、お好み焼きなど独自の B 級グルメも味わっていただけます。また、大阪城、ユニバーサスタジオジャパン、阿倍野ハルカスとその周辺など観光地もたくさんあります。特に会長晩

第45回 日本整形外科スポーツ医学会学術集会

一般社団法人  
日本整形外科スポーツ医学会

原点からの飛躍と  
多様性への対応

会期 2019年8月30日(金) 31日(土)

会場 ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター  
〒530-0011 大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 北館 82F

会長 中村 博亮 大阪市立大学大学院医学研究科  
感覚・運動機能医学大講座整形外科学

餐会はユニバーサルスタジオジャパンへ出かける予定としております。会場内へも入場可能ですので、是非若手の先生方にもお声掛けいただき参加を促していただ

れば幸甚です。多くの方々のご参加を賜り、本学会を盛り上げていただけますよう、よろしくお願いいたします。

## ■ 2018 JOSSM-USA Traveling Fellow 報告記

**濱井 敏** 九州大学  
**山口 奈美** 宮崎大学  
**武長 徹也** 名古屋市立大学

2018年7月1日～20日の約3週間に渡り、米国スポーツ整形外科界を代表する4施設：UCSF（University of California, San Francisco）Medical Center, UPMC（University of Pittsburgh Medical Center）, Umass（University of Massachusetts）Memorial Medical Center, HSS（Hospital for Special Surgery）を訪問するとともに、AOSSM（American Orthopaedic Society for Sports Medicine：米国整形外科スポーツ医学会）2018 Annual Meetingに参加する機会を与えて頂きましたので、ご報告させていただきます。

UCSF Medical Center（7月2日～4日、サンフランシスコ）

今回の travelling fellowship 最初のホストは肩膝関節を専門とされている C. Benjamin Ma 先生でした（写真1左）。Sports Medicine のチーフであり、各分野でエキスパートの先生方の手術を自由に見学する機会を頂きました。お互いの研究成果を披露して意見交換する場を設けて頂いたことも貴重な経験となりました。独立記念日にはご家族との Golden Gate Bridge Park でのトレッキングに招待して頂くなど、とても温かく迎えて頂きました。

AOSSM 2018 Annual Meeting（7月5日～8日、サンディエゴ）

各セッションが厳選された演題とショートレクチャー、数例の症例検討から構成されており、各々が専門とするセッションを聴講し勉強になりました（写真2）。武長はピッツバーグ留学中に行った研究を口演で発表しました。Traveling Fellow として Welcome reception や Family Night on the USS Midway などの Social events にも参加しましたが、多くの先生方が家族連れで参加している和やかな雰囲気が印象的でした。

UPMC（7月9日～11日、ピッツバーグ）

午前はホストの Freddie H. Fu 先生の外来と ACL 再建術の見学（写真1右）、午後は NFL スティーラーズと NHL ペンギンズの Sports Complex ならびに研究施設（Biodynamics Lab., Orthopaedic Engineering Lab., Orthopaedics Robotics Lab., Center for Cellular & Molecular Engineering）のツアー、更には Mt. Washington や学びの聖堂などの名所観光にディナーと、とても充実した日程を過ごすことができました。最終日には我々のプレゼンに交えて、Fu 先生から直々に Ana-



写真1：





写真 2:



写真 3:

tomic Individualized ACL 再建術の情熱的レクチャーを受ける機会も得られました。

Umass Memorial Medical Center (7月12日～14日, ボストン)

ホストの Brian Busconi 先生は肩膝股関節の鏡視下手術を中心に年間約 800 件の手術を行う一方、ボストンレッドソックスのチームドクターとしてメジャーからアカデミーまで全カテゴリーのトレーナーから送られる画像やレポートを毎日チェックして対応されていました。平日はほぼ毎晩現場に足を運ばれ、私達の訪問日はレッドソックスの 3A の試合があり、ベンチ内から観戦する機会を与えてくださいました (写真 3 上段)。

HSS (7月16日～18日, ニューヨーク)

最後の訪問地である HSS でのフェローシップは、我々のプレゼンテーションで始まりました。その後、ホストの

John G. Kennedy 先生の外来見学や 40 室ある手術室で行われている様々な手術の中から、それぞれ興味のある手術を見学させて頂きました。その他、研究施設の見学やディナー (写真 3 下段) に招待して頂くなど、充実した 3 日間を過ごしました。ホストの Stephen J. O'Brien 先生には、O'Brien test を直々に教えて頂きました。

最後になりましたがこのような素晴らしい機会を与えて下さった JOSSM 理事長の松本秀男先生、国際委員長の黒田良祐先生をはじめ国際委員の先生方、事務局の斉藤しおり様にこの場をお借りしまして深く感謝申し上げます。また、訪問先に留学中の先生方 (長井寛斗先生、中村智祐先生、木原伸介先生、井石智也先生、千葉大輔先生、鈴木智之先生、田口将史先生、下園由泰先生、和田進先生、藤井貴之先生、岡野市郎先生) にも大変お世話になりました。皆様に重ねて御礼申し上げます。

## ■ お知らせ

### 1. スポーツ損傷シリーズ

スポーツ損傷シリーズは、本学会監修の患者・関係者説明用パンフレットとして、現在、No. 31 まで制作しています。学会ホームページにて PDF ファイルの保存および印刷が可能ですので、是非、ご活用ください。なお、本シリーズ掲載の記事・写真・イラスト等を使用する場合は、必ず学会事務局に申請してください。

◆ 『スポーツ損傷シリーズ』 URL ⇒ <http://www.jossm.or.jp/series/index.html>

### 2. American Journal of Sports Medicine (AJSM) の購読について

本学会員は、American Journal of Sports Medicine (AJSM) を特別優待価格で購読することができます。

	一般価格	特別優待価格	
AJSM 購読 (年間)	\$183.-	\$102.-	※年 12 冊発行
オンライン購読 (年間)	一般向けサービスなし	\$ 30.-	

上記いずれの購読方法でお申し込みいただいても、1972 年の創刊号以降の全刊行物にアクセスが可能です。特別優待価格での購読を希望される会員の方は、事務局あてにメールにて購読希望である旨をご連絡ください。(info@jossm.or.jp) 追ってお申し込みについてのご案内をお送りしますので、各自で購入手続を進めてください。

#### 編集後記

東京五輪まであと 1 年、このタイミングで日本は 200 年ぶりの天皇譲位、生前退位という暖かいムードの中で新元号を迎えました。10 連休という前例のない長い国民休日となりましたが、多くの会員は診療や選手サポートなど通常通りの業務に携わったことと思います。少しは平年と違った時間を持てたでしょうか？

平成のスポーツ整形は、低侵襲治療や障害予防・パフォーマンス向上のメソッドが科学的に進化した時期と言えます。野球界では成長期の指導法について有名選手からも大きな声がかかるようになり、投球制限や検診について様々な議論が行われています。他の種目でも同様の多くの課題が年号を超えることとなり、私たちの学会が関わるべき使命になるでしょう。

本誌では、昨年西良浩一学会長のもと徳島で行われた第 44 回 JOSSM 学術集会についてご紹介してきました。よく練られた多種の企画の上、アスリートの情熱あふれるお話と鍛えられた阿波踊りの真髓をも感じることができた素晴らしい4日間を思い出します。令和最初の第 45 回学術集会はラグビー W 杯、五輪に直結するこの 8 月中村博亮先生が大阪で主管されます。日本中を沸かせた橋本聖子先生はじめ内外の著名な方々をお招きし数々の興味深いセッションが準備されているご様子、新しい幕開けが期待されます。令和の夏にお会いしましょう。(今田光一)

日本整形外科スポーツ医学会 ニュースレター No.18 2019 年 4 月 30 日発行

編 集：日本整形外科スポーツ医学会広報委員会

金岡 恒治 (担当理事)、平野 篤 (委員長)、  
 亀山 泰 (アドバイザー)、酒井 宏哉 (アドバイザー)  
 今田 光一、高橋 敏明、藤井 康成、安田 稔人

発 行：一般社団法人日本整形外科スポーツ医学会

〒102-8481 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館ビル 株式会社コングレ内  
 TEL: 03-3263-5896 / FAX: 03-5216-3115  
 E-mail: info@jossm.or.jp URL: http://jossm.or.jp/